



しっぽがある動物と、ない動物がいるのはなぜ

しっぽは背骨のある動物だけがもつ

しっぽは、背骨のある動物がもっています。もともとは背骨の一部で、泳ぐための道具と
 なったようです。しっぽは生活にあうように、さまざまな形に変化しています。水中にくら
 す動物は泳ぐ道具に、カンガルーは体を支える第3の足に、木の上で生活するサルは balan
 スをとる道具や、第3の手のように物をつかむ、などさまざまです。人間や類人猿など、使
 う必要がなくなった動物ではしっぽはなくなり、小さな骨だけが残っています。

しっぽは、大むかしからの基本的な設計図

動物の形はいろいろに変化していますが、基本的な構造は多くの動物で同じになっていま
 す。たとえば、動物は4本の足がありますね。6本足の動物がいてもよさそうですが、いま
 せん。4本の足というのは、魚が陸上生活をするようになったところに、もつようになった性質
 です。両生類、は虫類、鳥類、ほ乳類と進化していくあいだでも、4本という体の作りは変
 わっていません。鳥のつばさも、前足がその作りを変えたものです。
 生物は見かけの姿は大変ちがってみえても、大むかしの基本設計を変えずにそれを変形す
 るという、方法で進化してきました。

背骨という設計も基本設計の1つです。しっぽはこの背骨の一部分ですから、歴史が古く、
 多くの動物にしっぽがあります。それだけに、さまざまな形になっています。

(監修・今泉 忠明)

